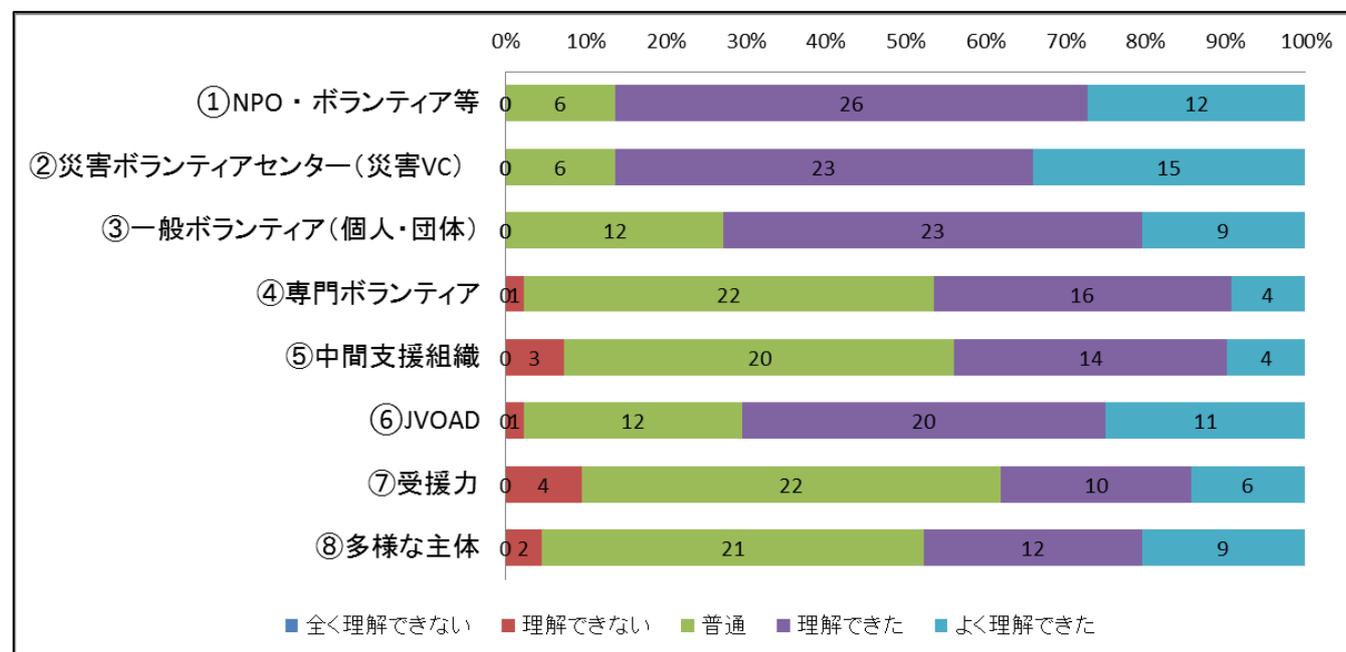


第 1 回研修会（10/26・青森県）アンケート集計結果

回答者数：44 名

1. 次の用語・事項について、理解は進みましたか？

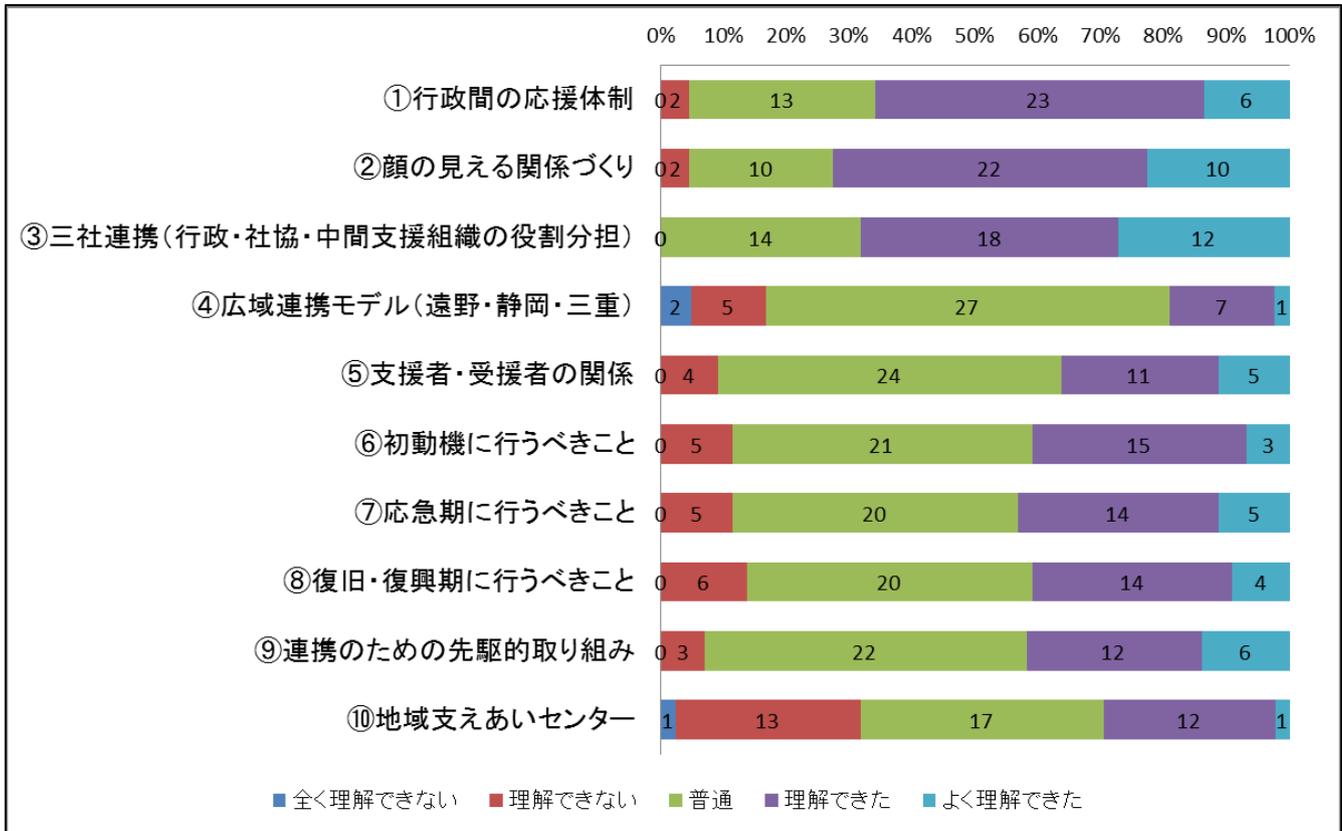


▼ それ以外でよくわからなかった用語等がございましたら、ご記入をお願いします。

- 熊本（益城）の避難所支援をしたためある程度ベースとなる情報を持っていたが、直接避難所の被災者と接点がない県の職員は災害 VC、一般ボランティア（個人・団体）、専門ボランティア、中間支援組織の違い、特に災害 VC では専門ボランティアを受けられないことなどを追加すると思う。
- 受援力という言葉について、人それぞれとらえ方が違うことがあるかと思えます。なぜそれが必要なかを書いておくことが大事だと思います。
- 勉強になりました。有難うございました。
- 災害時における理想的な役割分担の概念は理解できたが、JVOAD の具体的な位置付けが理解できなかった。災害 VC 以外の部分の役割をもっと具体化すべき。
- JVOAD の成り立ちや、立ち位置がもう一つ理解出来なかった。資料を読み込んで理解を図りたい。
- NPO・ボランティアの講義で狭義・広義といわれて分らなかったが、最後の明城氏の説明でやっと分かった。
- 「受援」という言葉ではまるで「全て受け身」のように感じられる。被災者自身の立ち直りに大きく関わることを考えると、被災者としても動ける人たちと、どう協力するかといった視点用語がほしい。

- 災害時における理想的な役割分担の概念は理解できたが、JVOAD の具体的な位置付けが理解できなかった。災害 VC 以外の部分の役割をもっと具体化すべき。

2. 次の内容について、理解は進みましたか？



▼ それ以外でよくわからなかった内容等がございましたら、ご記入をお願いします。

- 東日本大震災の復興支援のため岩手県のある村に行ったときに、県に対する不満を聞くことが多かった。県は市町村のやっていることはよく知らないということを知ったので、県、市町村のそれぞれが何をやっているか知るべきということを強調すべき。
- 地元の各種団体（日頃からつき合いはあるが、災害時は被災して機能が期待できない）との連携のあり方。
- 概論は分かるが…。より実践，現場経験者の話を…。ただ，錚々たるメンバーで，ありがとうございました。クロスロードや先生方の質疑応答中心で進めてもいいのかも。折角，青森県に来て頂いたのに少しもったいない。
- 中間支援組織の必要性について肉付けしていくべきと考える。
- 全国社協と県市町村社協間の連携と取組みの事例がもっと有れば良い。
- 中間支援組織の必要性について肉付けしていくべきと考える。

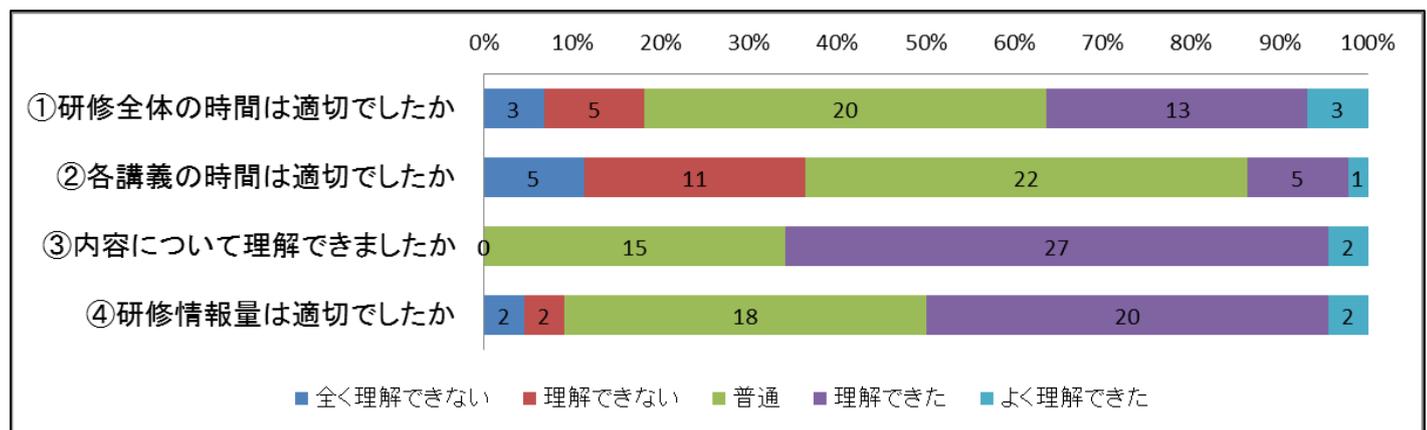
3. 研修を終えて、さらに学びたい事項（テキストに追加してほしい事項）はどのような事項ですか？以下の項目にチェックを付けてお答え下さい。（複数回答可）

- 平時の連携・協働の成功事例 21/44
- 発災時の連携・協働の成功事例 23/44
- 行政職員の経験談 25/44
- 社会福祉協議会職員の経験談 18/44
- NPO・ボランティア等の経験談 24/44
- 災害ボランティアセンター（災害VC）の立ち上げ手順 11/44
- 平時にやることリスト 17/44
- 発災時にやることリスト 22/44
- 復旧・復興期の行政の役割 11/44
- 訓練・研修の情報 10/44

▼その他（自由記入）

- 行政の職員向けのテキストということであれば、民間ボランティアは公民サービスの「都合の良い補填」ではないということも入れて欲しいです。このテキストができることで、何でも社協やNPOへつなげば何とかかなると思われてしまわないか心配。
- その他（経験談には成功例のみでなく負の部分の体験談も必要。）

4. 研修の内容・進め方について



▼ ワークショップ・講義内容についてご意見、改善案等ございましたら、ご記入下さい。

- 講義内容と時間の配分が適切ではない
- 各講師の説明がよく理解しやすいが、各コマ後5分～10分くらい長くてもいいと思う
- 研修全体の時間が少し長く感じたが講義はわかりやすかった。

- 行政向けというのであれば、コミュニケーションスキルも入れて欲しい。テキストを作ったことで人としてのソフト面も変わりゆるやかなネットワークを作っていけることを望みます
- 説明事項が多いためか、早口になっていて結構集中力を必要とした。
- 研修全体の時間に対して、講義の時間が長いと感じた。研修毎にテーマを細分化して、そのテーマに合わせて、ワークショップを行い、その後、講義を行えば良いのでは?と感じた。
- 申し訳ないが行政職員としては、弘中氏の話は聞いたことがあるような内容ばかりなので、社協やJVOADの講義を長めに時間を取ってくれる方が良かったと思う。研修の対象が変わるのであればその限りではないが。
- 講義内容が盛りだくさんで、半日では不足であったと思う。内容が異なっていたとしても、講義4本は多すぎて身に付かない。もっとワークショップのような内容に時間配分を多くすべきでは。
- 普段、意識したことが少ない分野のお話であったのでイメージが難しかった。もっと事例を増やしてほしいと思う。
- 各コマもう少し時間が必要。詳しく聞きたかった。
- ワークショップ自体は、講義を活性化させる意味はあると思うが、立場や背景が判る状態でのクロスロードでなければ発言の真意がわかりかねるということも付加して説明した方がよい。また、クロスロードの設問をNPO関係にすれば、導入の意味で尚よかった。わざわざ名古屋から来た准教授の概論は、できれば各論、より現場サイドの深い話しをして欲しかった。
- それぞれの講師の方のお話は、とてもためになる内容であった。個人的には、1つのテーマに50分程度費やしてもいいのではないかと思います。
- ワークショップのねらいが今ひとつ分らなかつた。アイスブレイクなのか、研修のテーマのイントロなのか、後者とすれば、もう少しボランティア、NPOの助けが必要となるケースを採用した方が、理解しやすいと思います。
- 各講義の内容をより詳しく聞きたいと思いました
- 講義内容は現在の業務にも関わる大変興味深いものでしたが、内容のわりに時間が短かったように思います。かけ足となり講義のみでは理解がおいつかないと思うところもあったため、もう少し時間をとって講義いただければと思いました。
- 行政職員向けで特に他団体との連携をテーマとするのであれば、全社協やJVOADなどに関する時間をももう少し多くして、理解を深める必要があるのではないかと。後半は時間を気にして講師があわてて説明していたのは残念。全社協、JVOADの役割や取組状況は大変参考となりました。ありがとうございました。
- クロスロードは初めて経験したが、いろいろと考えさせられ良い経験となった。小数でやるのもおもしろそうだった。
- クロスロードのワークショップをやってみたいと思いました。今回はさわりだけでしたが勉強になりました。三者連携についての方法手順等を具体的に知りたいと思いました。
- 講義のコマ数が多いので飽きませんが、時間が短すぎて理解が深まらないと思います。ワークショップの内容が実例に基づいているため、一気に引き込まれ、その次からの講義への期待が高まった

が、実際にはあまりつながらなかった。

- 講義の内容について、つめ込み過ぎた感があり、1つのテーマに対しての時間は短い、全体の時間が長い。
- どの講義も実際的にとても分かりやすい内容でした。災害前後における連携の重要性がよくわかった。1日がかりの研修でもいい。すばらしい講師陣。
- 時間に比べて情報量が多かった。必要なことと思うので、もっと長くすべきだった。

5. 研修会全体に対して、改善点・ご感想・コメントがあればご記入をお願いします。

- 協働が大切としていたが、それぞれの役割ができないので協力をするという内容に聞こえそれぞれに壁があるように感じた。
- 図上訓練を担当しており、県内の2つの町での訓練の支援（企画・進行・運営）を行いました。講師の方がおっしゃっていた「ヘルプを出さずがんばろうとする」ことを感じました。県は市町村や活動する機関などが気持ちよく活動するために何をすべきか各職員に知ってもらう必要がある。
- 避難所で行政が行うべき業務がよくわかっていない。実際に体験しないと理解できない部分もあり、何かしらの研修があればそれを通して理解が深まるのではないかと感じている。
- ボランティアセンターの役割を始めて知った。行政には限界や融通がきかないところがあるため、3社連携が重要であることがわかった。私も熊本地震での応援派遣で1週間益城町へ行った経験があったため、今回の研修に参加させていただきました。
- 県の災害対策本部についても、県内部の調整や、市町村との連携がメインで民間団体ましてやNPOなどのボランティアについては全く意識したことがなかった。災害やそれに対するニーズの多様化、一方で行政の対応能力の限界を感じたため、公的・民間問わず、連携し対応することが必要だと感じた。行政目線で見るとき各組織の講師の方々には行政にして欲しい事やすべきことを述べてもらいたい。
- 何回か継続してやっていただきたい。
- 今回が第1回目となる研修であるため、仕方のないことだと思いますが、特に理解してもらいたい内容を講義の最初（または最後）にまとめてもらう方が良いと思う。今回は講師の方が話したい内容を話していた。災害が多発している現在の状況で、自治体の災害対応に足りない部分が多いのは、行政職員は皆感じていると思う。しかし、国がいろんな関係機関から、あれも足りない、これも足りないと説明されているだけでは、実際の業務には還元されにくいと思う。講師の方にもそこをご理解頂き、具体的に「このように協力していきましょう」等の提案をしてくれる方が行政としてはありがたいと感じました。
- 男女共同参画を担当しています。国の男女共同参画の計画でも、防災分野における男女共同参画を進めていくとの内容が記載されています。避難所運営においても、男女という性別による問題が生

じている事例があると聞きます。避難所の運営が男性目線によるところが多く、女性には居づらいつとの意見があるそうです。今後、避難所運営について講義をされる際は、そのような問題への対応も加えて頂ければと思います。

- 県内の社会福祉協議会、NPOの方にもっと参加して頂きたかった。
- お話を聞いて、大規模災害時のコーディネートの強化の必要性を強く感じた。応援の受け入れは本県の課題でもあり、仕組みづくりが急務だと思うが、実際のイメージが湧かない。
- NPOはともすれば、行政の補助金狙いと誤解される。そういった意味で、今回の勉強会は、より具体的に勉強できた。内閣府から委託を受けた今講義も、全国のどさ回りではなく、地域性を鑑みた（例えば）青森県でしかやれない、受講者が受けて良かったと思う内容を念頭において欲しい（神戸等の経験を聞かせて欲しい）。NPO山田町の詐欺。NPOのイメージのせいで、中々フロント突破がきついと思うが誤解を早めに解く手立ては？災害ボランティアが宮古市には日帰りや短期のボランティアが沢山入った（便の良さ）が、町村には交通、宿泊、長期ボランティアの少なさから、あまりボランティアが入らなかった。これへの対策は？JVOADについて事前にHPは見てきた。今後の大災害では積極的に出てくる？自治体（行政）の計画がガイドラインに入ってくる？
- 講義の内容はすごく良く、分かり易かったが、もう少し時間を掛けて行くとしっかり研修できたと思います。また、一つか二つ位、社協やNPOで実際行った事例を、現場に関わった方からの説明があれば良かったと思います。とても中身のある研修でした。
- 今回の研修は、県と市町村の関係職員が対象となっているが、市町村と県では、災害応急対策の内容が異なるので、必要な棲み分けを行ってはどうか。
- とても有意義な研修であると思います。青森ではボランティア全般の取組が弱いので、このような研修を通じて理解が進んでいけば良いと思いました。やはり、実例を踏まえた内容は理解しやすかったです。総体としては、とても有意義なものでした。
- NPO・ボランティアが被災地へ入り、活動するまでの、自治体との実際のやりとり・動き等をもっと詳しく知りたい。自治体が、被災してまもなく応援要請をする流れなど…。研修会とても参考になりました。三者連携の必要性、それぞれの役割が理解できました。全体的に少し時間が足りないと感じました。
- 短時間で4名の講師の方の講義が聞け、大変有意義だったと思います。個々がどれだけ頑張ってもできる事は、限られています。【連携する】という事が大事だということを感じました。
- そして、顔が見える関係づくりも大事で、何かあった時すぐ動けるという点で、大きな力となるものだと思いました。
- NPO、ボランティアについて、重要性が良く理解できた。行政・民間・団体・支援者の総合力で災害に立ち向かわないと、大災害に対しては対応できないと感じた。平時から、行政の担当として、少しでも顔が見える関係を築きたいと感じた。これまではNPOやVCについて、誤ったイメージや、何か面倒な感じを抱いていたが、まったく間違っていたことに恥ずかしささえ感じた。
- もっと講義の数を絞り込んでもよいのではないかと思います。情報量が多い反面、時間が短すぎ、理解が深まらないため。（弊社←どこの企業・団体なのか明示した方がよいと思います。）

- やや発表する方と聴く方の距離を感じました。内容自体は、普段一般市民・県民として生活する上では知らないことばかりでしたので、NPO・NGOの活動を知るという点で有意義と思います。
- 実際の避難所運営の経験談がありましたら是非伺いたいと思います。
- クロスロードの「優先度」の混乱が、その後の内容にどう関わったのかわからなかった。出題の内容を寄せる必要があると思う。